

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100515		
法人名	社会福祉法人 陽恵福祉会		
事業所名	グループホーム陽恵苑(Bユニット)		
所在地	〒690-0024 島根県 松江市 馬淵町 104番地 1		
自己評価作成日	平成25年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=329

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成25年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今年度はグループホーム陽恵苑の周囲を取り巻く地域との関係づくりに力を入れてきました。その一環として、社会福祉法人陽恵福祉会設立(H24年10月1日)にあたり陽恵福祉祭を行い(H24. 9. 29)に行い、地域の方々ボランティア、出店、野菜の提供等々の協力を頂きました。又地域運営推進会議についての在り方など地域の方々のご意見を聴いたり、地域の防災訓練、集団清掃、などにも参加する事が出来ました。12月19日には社協の方の口添え、もあり寿会、福祉委員等のご依頼により竹矢公民館に於いて認知症についてグループホームとはどんなところか等のお話をさせて頂きました。今後も引き続き地域の中で利用者の方が参加していくことが出来るか、地域の支え、協力していくことが出来るか25年度も引き続き地域との関係を深めていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入し、地域行事への参加や運営推進会議への地域の方の参加、行事へのボランティア協力が得られ関係作りに取り組んでいる。看取りの希望が増え、意向に応える為に1月より訪問看護と契約を結び、利用者の状態の把握と緊急時の医療連携も強化出来、家族と共に看取りを行った。講演依頼を受け他事業所で看取り経験を話したり、中学生の福祉体験の前に「高齢者の方への関わり」「認知症とは」等の話しをし理解してもらうことに努めている。管理者は、看取り、困難事例の受け入れや自己評価を職員と一緒に取り組む中で職員の思いを知り、今後の取り組みに活かしたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。] B ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎日の朝礼で事業所の理念を皆で唱和している。夜勤明けが朝礼に出て唱和しているがパート職員は唱和には参加していない。又各ユニットのリビングにや、玄関に提示している。	朝礼の時に理念を唱和し確認し合い、健康管理やADLの維持や、思いに寄り添う支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎月地域のよらい喫茶に出かけ地域の方との交流を図っている。又地域の行事や、自施設の祭り事業に関してもボランティアでの参加や、出店などの協力もして頂いている。防災訓練、地域の方への認知症の講演などもおこなった。	自治会に加入した事で地域の防災訓練や集団清掃に参加するようになった。事業所行事にはボランティアの協力があり、依頼を受けて公民館で認知症の講演を行い事業所の取り組みを伝えている。	さらに、近所の理解や協力が得られる工夫を望みます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・年1回陽恵福祉祭を行っており地域の中の施設として利用者の方への理解と生活を知って頂く機会を持ち、当施設での生活を感じて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議において施設での取り組みなども報告している。又今後の改善点や、又問題点についても相談している。現場の職員にも運営推進会議への参加も行うようにしている。	利用者の状況や取り組み、問題点等を話し合っている。社協の人の協力があり地域の人にも参加してもらえるようになった。職員も参加するようになり会議内容を共有している。	欠席した家族に会議内容を伝える工夫を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・当施設の担当者により取り組まれていません。	待機者の情報や感染予防の情報をもったり、防災対策について相談をする等、協力関係を築きサービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・心掛けていますが、時々拘束している。夜間は不審者の侵入を防ぐ為に玄関の施錠はしている。2F外階段の所は出られることが分からない為施錠されていたが、監査指導により現在は施錠はしていない。エレベーターの施錠は危険な時は止めたことがある。	足元にふらつきのある利用者に夜間のリスクを伝えセンサーマットを使用している。身体拘束をしない統一したケアを行うために、ユニット会議の前に学習会をすることを計画している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・危険がある場合は家族の了解を経て短時間での拘束は行う場合も有るが、身体拘束となる状況がいまいち理解できていないのでこれから勉強の機会を持ちたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・学ぶ機会に関しては関連記事等を読むようにしているが活用できるように支援しているとは言えない。管理者に任せている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用者、家族との会話の機会を持ち不安等もたれない様風邪とうしの良い関係を保つようになっている。 ・新規利用者の家族様より十分な説明がなかったと苦情を受けたことがある。管理者に任せきりにせず職員として疑問点を尋ねればよかった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者、家族の意見等には常に報告するようになっている。 ・面会時に要望や質問等聞くようにしている。 ・利用者、家族との会話の機会を設け思いを訊くようにしている。	意見箱を設けたりバーベキュー大会の行事の時や運営推進会議で意見を聞くことに努めている。担当職員が利用者の様子を写真や一言添えて便りで家族に知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・会議の中で出た意見やアンケート、要望事項について検討し反映されている。時には反映されないこともある。 ・定期的に会議を行い機会を設けている	管理者は、日々職員に話しかけ言い合える関係に努めている。困難事例を受け入れる時も職員と一緒に自宅を訪問するなど、職員の思いに配慮した取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・能力給や、夜勤手当の増額等できる範囲でしていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・他施設の研修、外部研修、施設内研修に積極的に参加した。 ・研修への参加を勧めまた参加者による報告会を実施スキルの向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・定期的に同業者との交流会があり参加している。交流会を通じて情報交換の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・時と場合により声の大きさ、目線を合わせて話す、話しやすい環境作り行っている。新規入所の際事前訪問に携わり本人家族と面談不安等がないようコミュニケーションをとることが出来た。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・事前に困っていること不安なこと要望等家族、本人の思いは管理者が聞き報告を受け共有し情報交換している。 ・面会時や、お便りで利用者の状況を伝えたりお話しすることで安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者、家族の面会時には利用者の最近の様子なども伝え、ここでの生活を安心してもらえるよう伝え信頼関係を築けるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・今持っている能力を生かし楽しく生きがいのある生活になるよう本人の願い、意志を尊重したサービスをしている。利用者さんを家族と思い接している。尊敬の気持ちを忘れず職員の気持ちを押しつけない様心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・わからないこと、気のなることは家族様にお聞きしたり利用者の意向に沿い家族様の自宅へ同伴し交流の場を作ることが出来た。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・親族友人等の面会の際はゆっくりとくつろいでいただけるような環境作りを行っている。遠方の方や久ぶりの面会等は記念写真を撮ってお送りしたりしている。また毎年故郷に墓参りに帰りなごみの方たちと過ごす時間を作ったり家族と協力している。	家族や親戚の協力を得ながら、墓参りや甥の家に寄ったり、自宅のたけのこや柿を採りに行っている。月一回「よらこい喫茶」で地域の人とお茶を飲み、新しい関係づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・難聴の方、性格の合わない方、面倒見の良い方、などテーブル席を配慮したり楽しく会話ができるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・できていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・希望の添えることは職員で対応できるようにしている会議で話し合いできるだけ応じれるようにしている。利用者本人と話し可能な限り行っています。	日々思いや要望を職員間で受け止め支援している。居室の壁に数個のダンボール箱の荷物が載る棚を作ったり、ロッカーの扉をはずしてカーテンにする等、利用者の思いを聞いて本人本位に可能な限り支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・今までの生活環境、サービスの経過等把握し情報提供を確認し情報を共有している。また本人との会話の中でも新たな発見がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人一人の能力を生かし本人の意向に沿った生活をしていただいている。毎月の会議においてもカンファレンスを行い全職員で共通認識を持つようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月ケア会議を行い一人一人の変化やケアの在り方等話し合いをしケアプランに反映している。	介護計画に基づいた支援が行われているか、ケア記録表で確認チェックを行い職員間で共有している。毎月全職員で話し合い、状態に合わせ見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の個別のケア記録をもとに情報を共有し状態変化があれば話し合いしプランの見直し生かしていると思う。 ・きずいたときにも話合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・できていると思う。既存のサービスにとらわれない、またサービスの多機能化という事については努力不足だと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の公民館の御茶の会に定期的に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的の往診に来ていただいているが、受診が必要な場合は受診対応を行っている。	定期的な往診の前に日々の様子や服薬状況を伝えスムーズな受診支援をしている。緊急時は、既往歴、緊急連絡先等を記載した個々のファイルを持参し関係者と病状の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル、表情当変化があったときはすぐ報告し早期発見を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医が決まっておなじみの関係にある入院の場合は担当者が情報等の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・担当者が支援しその情報を職員と共有し皆で取り組んでいる	契約時、重度化や終末期についての意向の確認を行っている。看取りの希望が増え、1月から訪問看護との契約を結び家族と共に看取りの支援をしている。管理者は、職員の不安な気持ちを理解し、支え合いながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・応急手当の研修者が伝達講習を職員に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防防災訓練については地区の消防団長の把握消火器点検の依頼、使用方法の確認、災害時の対応について苑内研修があり参加した。	地域の防災訓練に参加している。今後、地域や地区の消防団との協力関係や、二階ユニットの安全な避難方法を検討していくことを考えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者一人一人傷つけない様不安にならない様声かけに気を付けている。・いつも尊敬の気持ちをもって接するように心がけている。きつい口調や友人と話すような口調になってしまうことがある。・職員同士、上司から注意助言素直に聞き態度を客観的に判断するよう心がけている。	一人ひとりを尊重した言葉かけや声の大きさに配慮している。入浴で同姓の職員を希望する人には対応している。排泄介助時もドアの開閉に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご本人の希望に添えられるよう意見を聞き判断がつかない場合は選択できるよう働きかける。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・どうしても職員側のペースになっていることがあり反省している一人一人のペースを大切に利用者の希望思いを大切にしていきたい。気分に変化の生じやすい認知症の特徴を念頭に行動、表情を観察職員側のペース中心にならないようにと留意している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出の際のお化粧、洋服の選択、なじみの美容院へ出かけられる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し見て食べて楽しんで頂けるよう調理法、色彩、食材にも工夫している。一緒に食事を作ったり片づけたりと協力していただいている。	野菜を切ったり盛り付け、下膳等、役割を大切にして出来る事の継続支援をしている。食べる事を忘れる利用者の食事はすぐ下げないで、食材の産地を説明したり好む言葉かけをして根気よく支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせ食事を提供している食事量や水分量は記載し1日量を確保できているか確認。脱水や、便秘に気を付け栄養が足りない方は補助食品を使用する場合もある。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアを徹底している。清潔保持に気を付け風の予防にもなっている。義歯の調整など不具合があれば歯科医と連携しすぐ対応ができています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・オムツの使用を減らしできるだけトイレでの排泄を行っていただく。 ・本人のパターンを知り尿意がない場合は日中は声かけを行ないトイレでの排泄を促している。	排泄パターンを把握しトイレでの排泄を大切に支援している。番茶入りのポットや洗浄ボトルがセットしてあるトイレもあり皮膚の清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・なるべく下剤に頼らず水分をしっかり取って頂き食物繊維や、牛乳、ヨーグルトを提供しているが、下剤の方も多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・1日3人くらいと決めているが、本人の入浴日を希望により変更したりする場合がある。 ・お風呂の案内をするが本人の希望を聞いている。	入浴日は決まっているが、汚染時や希望に合わせ柔軟な対応をしている。足先の血流の悪い人には居間でリラックスして足浴したり、入浴を拒む人は個浴風呂やデイの特殊浴槽を利用し環境を変えて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寒い時期には電気毛布、あんか、エアコンなどで本人が眠りやすいよう配慮している。 ・食後は部屋で休息をされる方は自由にされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の確認や、チェック機能により誤薬のないよう注意している。薬の効能で蓄積等の変化があれば報告している。わからない薬は薬の説明書などで確認することもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・野菜切、新聞たたみ、食器洗い、食器拭きなど、辞任の部屋でのおもてなし、等々のできる仕事や、楽しみができるよ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・職員体制を考慮し希望に添えるよう支援している。(誕生日のお出かけ、喫茶店、買い物、等) ・家族の支援で出かけられることもある。	天気に合わせ散歩や庭の草取りをする人、庭でお茶を飲む人等、日常的に支援している。ホテルのバイキングに公共のバスを利用して行ったり、車椅子の人は事業所の車を利用して行き、普段行けない所に出かけ楽しめる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として事務所で管理しているが、希望時は事前に本人の希望金額を渡すこともある。外出時に自分で買い物をしている。 ・少額を自己管理されている方もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話をかけたいと希望される方にはつなぐことはしている。携帯電話を持っておられればご自分でかけておられる。 ・手紙は書くことがあまりできないためほとんど書くことはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じてリビングの飾りつけを季節感が出るようにしたり、模様替えを行ったりテーブル等の位置を変更したりしている。職員の声のトーンはもっと配慮していかなければと反省している。	台所が対面になっていて食事作りの匂いがリビングに漂い、季節感を大切に飾り付けや利用者が作った折り紙を飾っている。トイレは各居室の隣にあり他の人と重ならないよう配慮がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ、和室、テーブルの配置、利用者同士が話しやすい環境、廊下のソファの利用など好きなどで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れたものや、家具の配置を工夫したり、家族さんとゆったり過ごしていただくよう椅子など配慮している。	机、テーブル、タンス、冷蔵庫等、使い慣れた物を持ち込み、クローゼットの扉をはずしカーテンレールにしたり、出入り口に手すりを設置する等、本人本位で居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・歩かれるところにものを置かない様安全安心を心掛けている。 ・自分らしい生活ができるよう支援している。出来ることは見守り必要以上の介助はしないように心がけている。		